

# 未来型図書館等複合施設について



令和8年1年31日(土) 第1回 こまつリビングラボ  
未来型図書館づくり推進チーム

## 「市民と共に進める、次世代都市」づくりを体現するモデルとして プロジェクトスタート

### 未来型図書館のあり方の調査研究 — 市民と共に考えニーズを把握 —



市民アンケート(回答約1,500人)  
市民ワークショップ 等も実施

調査研究報告書作成



# 未来型図書館について（令和4年度）

## 基本構想の策定（令和5年3月策定） — 市民と共にビジョン・基本方針を具体化 —

### ✓ 基本構想策定委員会（有識者等8名）

- 専門的立場や幅広い視点から議論（全5回開催）
  - 未来型図書館のビジョンや基本方針の具体化
  - 立地候補エリアの意見集約
- **『芦城公園周辺エリア』に決定**

### ✓ 開館を見据えて人材育成講座もスタート

- 「**子ども司書養成講座**」は52名が修了（R7時点）
- 「**図書館エディター養成講座**」は39名が修了（R7時点）

ビジョン：まちや暮らしで実現させたいあり方

**こまつを編む。**



**こまつを巡らす。**

—まちの「情報」・まちの「つながり」・まちの「とき」—

#### ● こまつを編む。

まちの中にある多様な資源を結びつけ、価値を生み出しながら、小松の人々が自らの手で、小松というまちを編み上げていく様を意味する。

#### ● こまつを巡らす。

人・文化や歴史・情報・活動・経済等、様々な要素が地域において将来にわたって循環し、連鎖し、繋げ、生き生きとしたよりよいまちのかたちや暮らしを持続的につくっていく様を意味する。

情報

多様な形態、種類、内容の情報を、その垣根を超えてつなぎ、新たな価値を生み出しています。

つながり

多様な人、地域、文化など個々の特徴を活かしながら、関係性を強くし、つながりを生み出しています。

とき

まちの歴史のなかにある資源（ヒト・モノ・コト・場所）を掘り起こし、未来へつなげています。

### ✓ 市民ワークショップ（5回・延べ250名参加）

- 幅広い年代・職種の市民が参加（幼児～シニア層）
- まち歩きや地域資源マップづくりでの対話を通して機能やサービスを検討
- 未来型図書館のビジョン・コンセプトとして言語化**
- 共創の機運を醸成**

コンセプト：ビジョンを実現するための具体的方策

#### ● ひとの営みや情報の核となる拠点（こまつベース）

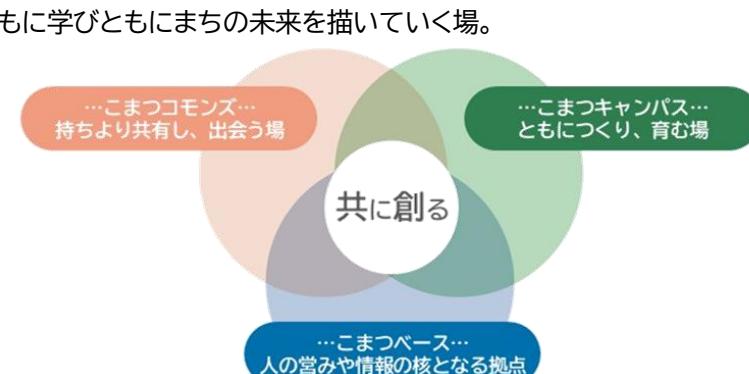
情報が垣根を越えてつながり、集約された拠点。情報資源（ヒト・モノ・コト・場所）の個々の特徴を生かしながら結び付け、編集していくまちの核。

#### ● 持ちより共有し、出会う場（こまつコモンズ）

人々が、様々なことを持ち寄り共有する場。誰もが分け隔てなくそこに居ることができ、人が集まり会うこと、やりたいことを支えていく場。

#### ● ともにつくり、育む場（こまつキャンパス）

多様な人が関わり合いながらつくり、人やまちを育む場。  
ともに学びともにまちの未来を描いていく場。



# 未来型図書館について（令和5年度）

## 未来型図書館等複合施設官民連携事業調査

### ✓ 公共施設マネジメント事業と一体的に調査・検討

- ▶ 複合機能や官民連携手法等を調査・検討
- ▶ 基本計画策定(R6年度)に向け事業方針を作成

集約  
再編

- ▶ 具体の立地場所
- ▶ 施設の集約・再編(図書館・博物館・公会堂等)
- ▶ ビジョン・コンセプトを実現する機能
- ▶ 公園との一体的な整備

官民  
連携

- ▶ 事業者との対話を通じた参入意欲の把握
- ▶ 民間収益事業の可能性
- ▶ 官民連携の事業手法

こまつリビングラボとして始動！

リビング (生活空間)  
Living + ラボ (実験室)  
Lab

- リビングラボは、市民や事業者、大学、行政等が参画した対話と活動の場であり、これまでのワークショップを発展させた形で、未来型図書館に求められる機能・サービス等を考え、そのアイデアを実践していく場。
- 利用者協働の視点になり、実際に施設を使う市民自らが、実現したいアイデアを考える。
- 開館後には、様々な地域課題の解決や新たな価値を創出する取り組みの場としての役割を担う。



国土交通省  
「先導的官民連携支援事業」に採択

- 複数の公共施設と都市公園とを一体的に再整備し、複合的な事業手法により都市機能向上を図る点。
- プラットフォームを形成しながら市民との対話により検討するプロセスに先導性がある。

アクセス

- ▶ 駐車場のあり方

回遊性

- ▶ 周辺文化施設との連携
- ▶ 都市機能誘導区域内の回遊性創出

共に  
創る

- ▶ 対話と活動のプラットフォーム  
「こまつリビングラボ」形成

# 事業方針に掲げる未来予想図（令和5年度）

第1回	第2回	第3回	第4回	第5回
12の役割を追求しよう! (利用者の視点)	共創シーンをつくろう! (運営者の視点)	ゾーニングを考えよう! (設計者の視点)	周辺との連携やまちの回遊性を考えよう! (今後の活動や実践)	リビングラボの小松モデルを考えよう! (ふり返りと次年度活動)

## 市民と共に創り上げ、市民の想いを可視化した「未来予想図」



# 未来型図書館について（令和6年度）

## 基本計画の策定（令和7年3月策定） — 今後の施設整備・運営の重要な方針 —

### ✓ 複合施設の機能・規模の具体化や施設整備・管理運営計画を策定

- ▶ 市制90周年の節目となる2030年の開館
- ▶ 多面的な機能を備えた複合施設
- ▶ 新たな「まちづくりのキーステーション」

#### 「未来」の定義

小松の「未来」を共に創る（共創）  
(常に時代の先端を行く▶未来に触れる)

まちを創る  
まちじゅうに、  
さまざまなかけ橋  
を渡し続ける

こと・ときを創る  
施設を通して  
起こる体験  
をつくり続ける

ひとを創る  
こどもたちの  
未来を創造する  
ための環境を提供  
し続けていく

#### 未来型図書館の基本方針

未来型図書館の実現に向けた具体的な方針について記載。

##### 機能の融合による新たな 価値創造

図書館と博物館を中心に交流・活動機能の融合により、多様な世代や市民ニーズに対応した知と文化の拠点、新たな創造拠点を目指す。

##### 市民協働と官民連携による 共創型運営の実現

市民参加型の運営ネットワークを構築し、官民それぞれのノウハウを活かした、持続可能な施設運営を目指す。

##### デジタル化と情報発信の強化

多様な交流、コミュニケーションが可能な情報環境を整備し、情報におけるユーバーサルデザインの導入など、誰もが情報を活用できる環境を実現する。

##### 施設連携と地域全体 での文化発信

南部図書館や空とこども絵本館、美術館などの文化施設との連携を強化し、地域全体で資料を共有・保存し、文化を発信・学習する仕組みを構築する。

##### 多様なニーズに対応した 空間とサービスの提供

多様な活動や交流に活用可能な空間を整備し、バリアフリー環境やアクセシブルな書籍の導入など、誰もが利用しやすい環境を実現する。

##### まちづくりとしての 未来型図書館づくり

「小松市2040年ビジョン」などの上位計画と整合を図り、新時代の象徴となる未来型図書館をまちづくりのキーステーションとして位置付ける。

こまつリビングラボもバージョンアップ！

✓ オンライン版リビングラボ（対面に加え、オンラインでも実施）

全7回 延べ469名

✓ ティーンズ版リビングラボ（市内の中学・高校へ出張して実施）

12校 153名参加 アンケート調査回答数 2,547件

✓ アドバイザリーボード（専門的知見を持つ有識者による助言）

専門有識者（社会教育：図書館・博物館、市民共創、地域プランディング）

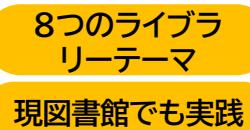
**市民と共に施設を設計**

## 第1回 ライブラリーテーマを考えよう！

## 図書館運営への参画と関心度の向上へ

# 新しい発見や想像力を沸き立たせる 「ライブラリーテーマ」が誕生

- ✓ テーマのもととなる多様なキーワードを考える
    - 自身の興味・関心のあることなどから連想しながらキーワードを考える
  - ✓ みんなの想いやアイデアを繋いでテーマの言語化へ
    - それぞれが考えたキーワードを共有し、対話を通じてグルーピング



## 第2回 プロデューサーになってみよう！

## 融合の象徴となる新たな機能を施設に追加

## 多面的な機能をもつ未来型図書館の融合・連携を 生み出す多様なプロジェクトが誕生

- 博物館と他の機能が融合・連携する企画を考える**
    - 施設全体が真に機能融合するための必要なリソースや機能間の関係性を把握
  - 企画をつなげ、ふくらます**
    - それぞれの企画にグループメンバーの提案や企画のコラボレーションを検討



ライブラリーテーマ × 博物館 × その他機能



### 第3回 建築家になってみよう！

## 施設コンセプトや求める空間デザインへ

様々な体験や活動が生まれ、みんなの  
アイデアがつまつた建築空間イメージが誕生

- それぞれが思い描く未来型図書館のイメージを考える

- ▶ 施設の外装や内装、雰囲気や図書館機能の配置（集約型・分散型）などについて、関係性を考える

- みんなで創造をめぐらせ、具体的なイメージを描き出す

- ▶ フロアごとの特徴や立地場所の公園の関係性も意識

## まちとのつながり

## 吹抜け

## 施設の回遊性

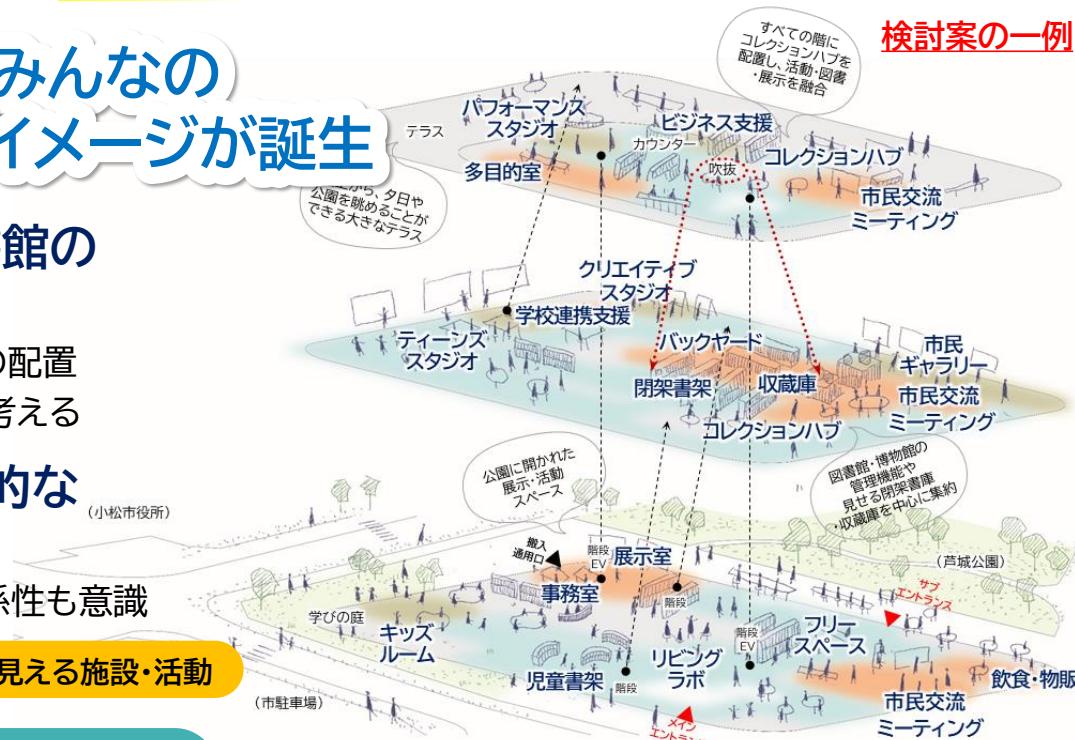
## 見える施設・活動

## 第4回 未来型図書館と公園の関係をデザインしよう！

# 未来型図書館と相乗効果を生み出す 芦城公園の新たな活用策が誕生

- ## ✓ 季節ごとの芦城公園での活動イメージを考える

- ▶ 四季ごとの活動・体験や必要な環境・機能を検討
  - ▶ **未来型図書館との関係を意識した  
公園全体のデザインを考える**



## 公園再整備基本計画に反映

# 未来型図書館について（令和6年度）

## 第5回 リビングラボの「小松モデル」を考えよう！

## 新たな共創のステージへ

### みんなで描いたこまつリビングラボのロードマップが完成

#### ✓ こまつリビングラボのこれからを考える

- ミニ講演やトークセッションによるリビングラボの将来像や展望を伺う

#### ✓ リビングラボのロードマップを描こう！

- 来年度以降取り組みたい活動や将来像。これから大切にしていきたい価値観

### こまつ リビングラボの ロードマップ



小松の未来をみんなで創ろう！

#### 図書館エディター



まちづくりのキーステーションとしての共創

利用者協働の視点からの共創

共創を通じたシビックプライドの向上

プロセスに応じた共創の実践

#### 事業者選定・設計・建設段階における 共創の実践

設計・建設の過程においても利用者が期待する空間や活動内容を具体的に現地などで体験する機会を確保

#### 開館準備、開館後における 共創の実践

令和12年の開館に向け、子ども司書や図書館エディターなど、市民との共創による実践的な活動を展開



「こまつリビングラボ」では、これまでたくさんの市民の皆さんに夢を描いたなから取り組みを進めてきました。小松市は令和10年の記念の年にある2030年の開館を目指し、リビングラボも皆さんと一緒に創り育てていかなければいけないと思っています。「バックキャスト」の機能を大切にしながら、今後はリビングラボの姿を引き続き一緒に描いていきましょう。

「バックキャスト」とは、目標とする未来像を描きながら実現する方法を考えること。

## 事業者選定手続き—PFIアドバイザリー業務—

✓ 市制90周年の2030年の開館を目指し、PFI手法による事業者選定手続きを開始

- 2040年ビジョンで描く「ワンランク上の生活空間あふれるこまつ」を実現
  - ▶ 未来型図書館を中心に、知・文化・歴史・交流・緑が融合する一大ゾーンへ

### 未来型図書館の目指す役割

- 多面的な機能が融合する 学びの拠点
  - ▶ 本や情報、展示、体験が結びつき知の循環が生まれます
- 市民が交流を通じて、共に成長し 未来を育む場
  - ▶ 出会いと対話から、新しい活動や価値が生まれます
- ワンランク上の暮らしを目指す みんなの居場所
  - ▶ 誰もが気軽に過ごせ、居心地のよさと安心が生まれます



### 近年の研究や、テレビ特集でも…

- ✓ 図書館が充実し、市民一人あたりの蔵書数が多い自治体ほど、介護が必要なる人が少ないという調査結果が発表
  - ▶ 図書館の蔵書数が人口あたり1冊増えると、その地域の高齢者の要介護リスクが4%減少
- ✓ 図書館が単なる本の貸出施設ではなく、交流と学び、地域課題の共有と解決、中心市街地の賑わい創出を担う、総合的なまちづくりの拠点として位置付けられていることが紹介
  - ▶ 本を借りる場所 ⇒ ゆったりと過ごせる「滞在型図書館」 ⇒ 暮らしや仕事の悩みに寄り添う「課題解決型図書館」
  - 未来型図書館は、その先の市民・事業者・大学・行政など多様な主体が学び、考え、試みる「共創型の図書館」を目指す。

## 施設規模・目標来館者数

- 多面的に機能が融合する複合施設として、施設規模は、**延床面積 約9,000m<sup>2</sup>** を想定
- 目標来館者数は、**40万人／年**（図書館34万人・博物館3万人・市民活動3万人）



## 施設機能

コンセプト	諸室
知の集積 施設・地域連携 「個」の活動	書架、個人・閲覧スペース 学校連携支援
地域の歴史文化の 集積・編集	展示室、収蔵庫 バックヤード
発信・表現	市民ギャラリー
知・文化の共有	ミーティングスペース
体験の共有・交流	多目的室 飲食・カフェ
創造	クリエイティブスタジオ パフォーマンススタジオ ティーンズスタジオ
子育て支援	キッズルーム
共創 活動支援	リビングラボ・ビジネス支援
くつろぎ・居場所	広場・フリースペース
情報と活動の融合	コレクションハブ

- 図書館機能** **市民の学びを支える知の集積**
  - 魅力ある蔵書の拡充 **蔵書数35万冊**
  - ゆったりとした閲覧席 **360席**
  - 新たな本との出会いとなる **テーマ配架の導入**
- 博物館機能** **小松の歴史・文化を次世代に継承**
  - 訪れるたびに変化のある **企画展示**
  - 市民の発表・表現の場 **市民ギャラリー**
  - 図書館と博物館の融合 **コレクションハブ**
- 市民交流・活動** **市民の交流・活動・共創を支える**
  - 市民やコミュニティ活動を支える **様々な交流機能**
  - 市民の憩いの場となる **カフェ・飲食機能**
  - 10代の居場所や成長を支える **ティーンズスタジオ**
  - 市民と未来を創造する **リビングラボ**

# 未来型図書館について（令和7年度）

事業費(施設整備費・管理運営費)

設計・建設・管理運営を一括性能発注 (PFI手法が最適)

- 民間のノウハウ・創意工夫の発揮や長期的に安定した事業運営が期待

## 施設整備費

総額 **105.3 億円**

- ✓ R6からの物価上昇見込む  
(人件費・建設資材など)

< 主な費用の内訳 >  
基本・実施設計、工事監理  
本体工事費  
什器備品購入、システム整備  
外構工事 など

このうち、市の実質負担  
約 **30.1 億円**

防衛省や国土交通省の  
手厚い補助金等を活用  
財政負担を大幅に抑制

15年間の管理運営費 + 3年間の開館準備費  
総額 **69.15 億円** (年平均 **4.61 億円**)

- ✓ R6からの物価上昇見込む
- ✓ 民間のノウハウ蓄積等から運営期間は15年が適当

< 主な費用の内訳 >  
運営費:人件費、図書購入費  
維持管理費:施設・システム保守  
光熱水費  
開館準備費:人件費、図書移転

利用者満足度を高める  
施設運営に重点  
(一定の人員・管理運営費が必要)

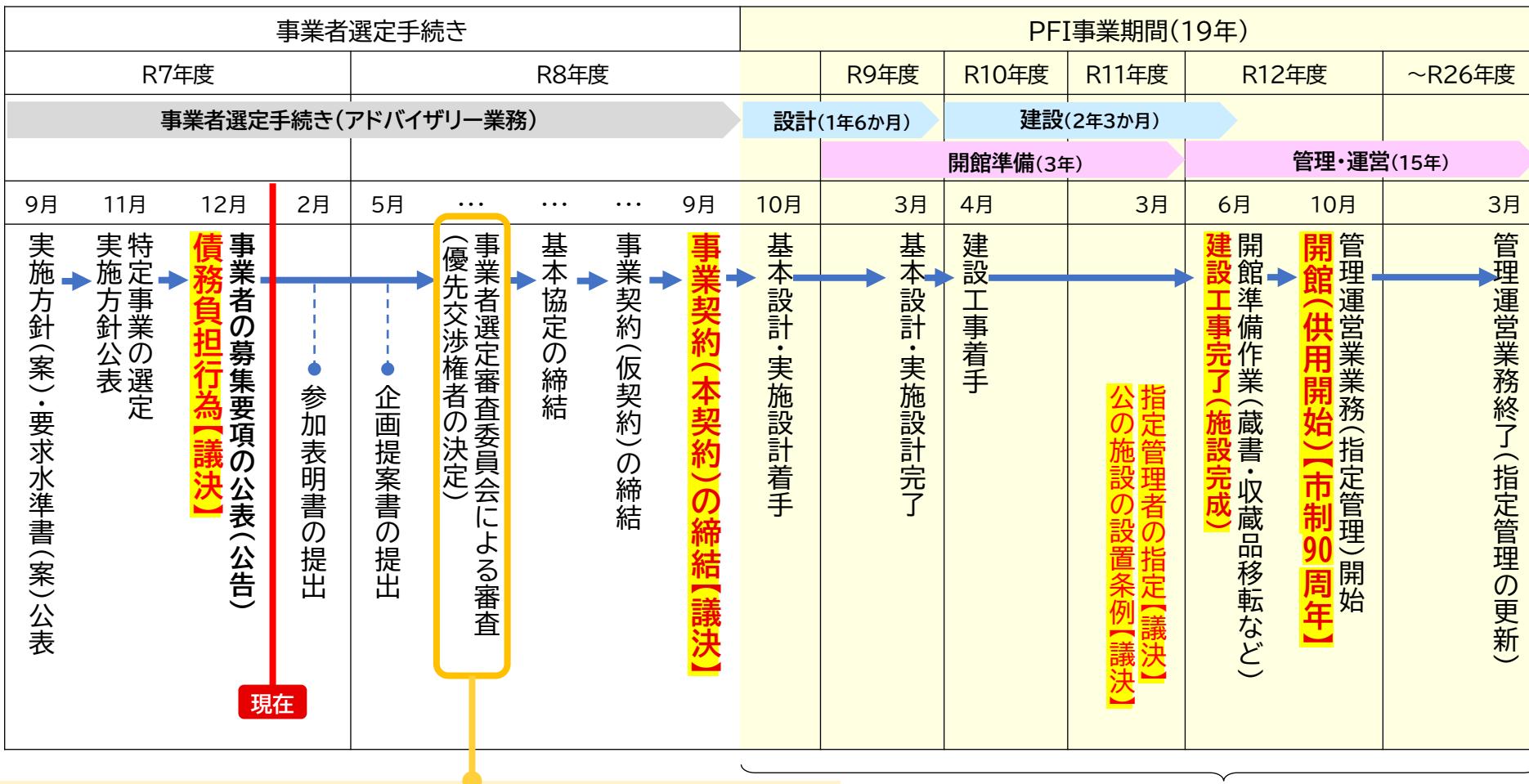
- 芦城公園一帯の老朽施設を再編し、図書館・博物館・公会堂の機能を集約化・複合化することで、国の手厚い支援制度が活用でき、整備規模に対する市の実質負担を大幅に抑制

		当初計画	費用更新後の計画	現在の計画 ※防衛省補助金の拡充後	芦城公園周辺以外で建設した場合の試算
支出	建設費(A)	86.3億円	105.3億円	105.3億円	同左
財源内訳	国補助金 (B)	国交省 31.9億円	国交省 <b>34.0億円</b>	国交省 + 防衛省 <b>53.0億円</b>	国交省 <b>34.0億円</b>
	市債 (C)	公適債 45.8億円	公適債 <b>61.4億円</b>	公適債 <b>44.3億円</b>	<b>56.4億円</b>
	うち交付税措置額 (D)	22.9億円	30.7億円	22.2億円	7.5億円
	一般財源 A-(B+C)	8.6億円	9.9億円	8.0億円	14.9億円
市負担額 A-(B+D)		31.5億円	40.6億円	30.1億円	63.8億円

大幅に圧縮 (当初計画規模並みに)

# 未来型図書館について（令和7年度）

## 事業全体のスケジュール



### 公開プレゼンテーションを実施します

- リビングラボ等の意見を踏まえた施設づくりを目指し、透明性や公平性の確保のもと、市民共創を推進するため、審査におけるプレゼンテーションの一部を市民に公開



(予定)7/12(日)午前  
團十郎芸術劇場うらら大ホール

### 設計・建設、管理運営の全てにおいて モニタリング(事業の監視)を実施

※ 定期報告や現地確認、KPIによる定量評価を通じて、契約上の性能要件(要求水準)達成の確認や公共サービスの質・量を評価、点検し議会に報告していきます。

## 子ども司書養成講座

- 図書館のことや本のことを学び、将来、司書として活躍する子どもたちや、未来型図書館づくりに主体的に参画し、地域で活躍する人材を育成することを目的に令和4年度よりスタート。

- 対象: 小学4年生～中学3年生

内容: 司書の仕事体験、POP作り、読み聞かせ、テーマ配架等

受講生: 第1期 18名／第2期 11名／第3期 7名／第4期 16名



## こまつ子ども司書クラブ「BOOKキッズ」

- 令和4年度の「子ども司書養成講座」を修了した第1期のメンバー13名で結成（令和4年12月）

- 現在は、第3期生5名、第4期生13名が加わり、39名で活動中（小学生4～6年生15名、中学年生22名、高校生2名）

- 「本と人を結ぶリーダー」や図書館の魅力アップを目指し、養成講座で学んだこと・体験したことを活かしながら、自分たちで活動内容・計画を考え、楽しく活動している（活動日:毎月第4土曜日の午前）



## 図書館エディター「こまつオルワ's」

- 「ヒト・モノ・コト」に目を向け、地域コンテンツの編集・発信方法を学ぶ「図書館エディター養成講座」を令和4年度・5年度に開催。
- 講座を修了した第1期のメンバー11名で図書館エディター「こまつオルワ's」を結成（令和5年5月）。その後、第2期生10名が加わり、21名で活動中（20代～70代）。
- 地域コンテンツの編集・発信者を目指し、講座で学んだ編集スキルを活かして活動を展開中



▲小冊子「こまつを綴る」発行

## 子ども学芸員養成講座

- 博物館・美術館や展示のことを学び、地域の文化芸術の魅力や大切さを伝え、地域で活躍する人材を育成することを目的に令和7年度よりスタート。次年度以降も第2期講座を継続して開催とともに子ども学芸員クラブを結成予定。

- 対象: 小学4年生～中学3年生

内容: 学芸員の仕事体験、バックヤードの見学、解説パネル作り等  
受講生: 第1期 8名



# (株)こまつ賑わいセンターとの連携について



## ● 未来型図書館の基本計画では、

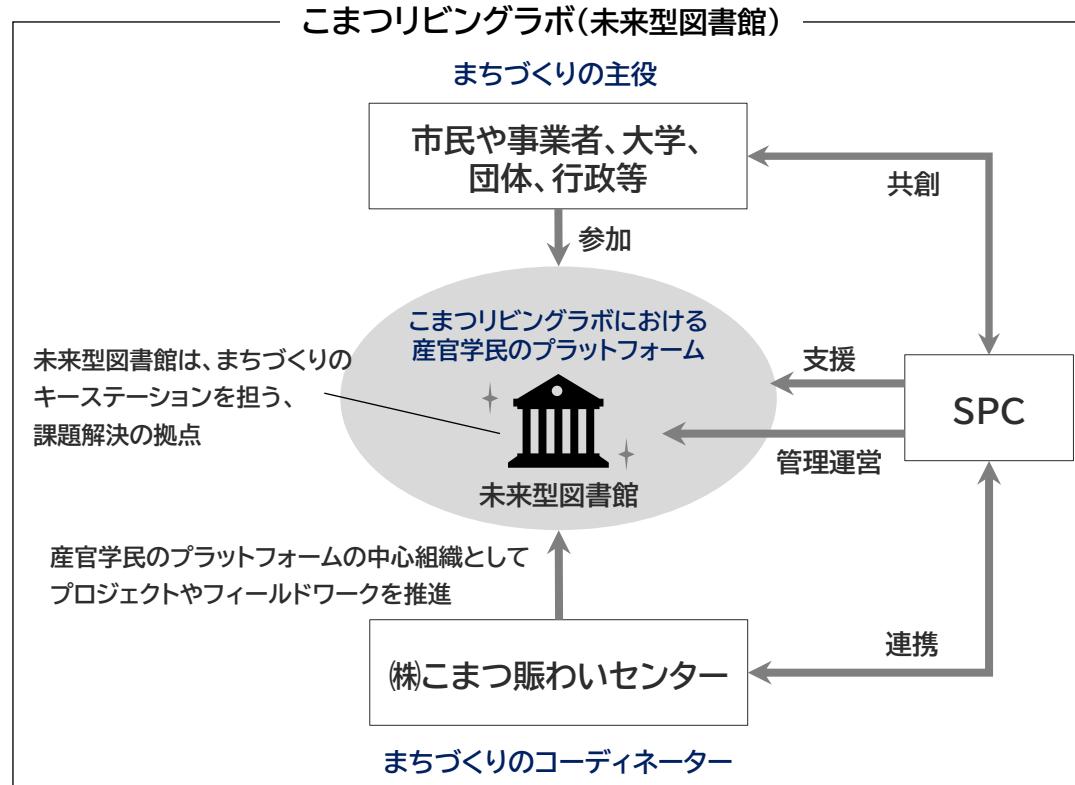
- ▶ **こまつリビングラボ**は、人・情報・活動がつなぐ共創の場として、**未来型図書館の中心的機能**。
- ▶ 芦城公園から小松駅へつながるエリアの人流や回遊性を高め、**エリア価値向上を共に考える場へと発展**。
- ▶ 地域課題やまちづくりの観点からも、地域に根付いた運営組織が必要であり、開館を待たずに先行して体制を構築。

## ✓ (株)こまつ賑わいセンターが**リビングラボの運営の中心組織として活動をけん引**

- ▶ 未来型図書館のリビングラボスペースを活用し、**市域全体のまちづくりの実践に取組む橋渡しや地域との連携強化**。
- ▶ 複合施設の**リビングラボ内にコミュニティマネージャーを常駐**する予定。  
(市民や関係団体との連携を深めながらのプロジェクトの推進を通じて広域的なまちづくりをけん引していきます。)

## ● 運営体制・仕組みづくりへの取組

- ✓ 令和6年度に作成した「リビングラボのロードマップ」を踏まえ、「未来型図書館づくり」に加え、「小松駅周辺のまちなか再生」など共創プロジェクトのビジョンや活動方針を検討
  - ▶ 未来型図書づくりにおける官民連携・共創の場づくり
  - ▶ 小松駅周辺における産官学交流・共創の場づくり
- ✓ 共創プロジェクトごとに中心となって動かしていく人材や、運営を支える人材の調整など、持続可能な運営体制を構築
- ✓ 多様な主体の参画、連携・協働のもと、対話を通じて実現に向けた共創プログラムの実践
  - ▶ 対面形式によるワークショップの開催、結果の取りまとめ
- ✓ リビングラボの情報発信
  - ▶ ホームページやSNSなどを通じて対外的に情報発信





## 共創の体制の確立



「未来型図書館づくり」をきっかけにスタートした「リビングラボ」



## エリア価値の向上



未来型図書館を核に新たな人の流れの創出へ

**未来型図書館の中心的機能**として位置づけ、  
地域課題の解決や新たな価値の創出につなげます。  
そして、市民が「**自分ごと**」として活動する  
主体的なまちづくりを目指します。

- 未来型図書館づくりとあわせて対話の場のリーダー(ファシリテーター)となる人材を育成中(R4年度～)
- 子ども司書に加え、R7より「子ども学芸員」を養成



みんなで  
小松市を「明るく、にぎやかに！」

▲ 運営が持続可能なものとするため、株式会社まつづらいセンターが中心的組織として位置付け、地域課題の解決や新たな価値創出など「まちづくりのリビングラボ」に

周辺の文化施設と連携し、  
**芦城公園エリア**に新たな活気と交流を創出します。  
小松駅や小松運動公園エリアとの回遊性により  
まち全体の価値を高めていきます。

- 小松駅から1キロ圏内である好立地を活かし、市民生活の利便性を高め、移住・定住を促進
- 北陸新幹線小松駅開業効果をまち全体に

住み続けるならやっぱり小松！



▲ 路線価は北陸新幹線の延伸効果を背景に2年連続で上昇。(前年度比プラス8.7%)  
価値・魅力向上につながる取組を進め、人流が一層活発化し、更なる賑わいの創出へ

- 計画段階から運営までを市民と共に創り上げるプロセスや、老朽施設の再編による芦城公園エリア全体のエリアマネジメントなど  
従来にないまちづくり手法にチャレンジしている総合プロジェクト
- PFI 手法による民間ノウハウや国の手厚い支援制度(補助金)の積極活用、省エネ対策の充実等により、  
市の財政負担や環境負荷を低減し、持続可能な施設運営を実現
- 全世代の社会教育や各種団体活動、芸術文化振興とともに、これから時代に必要な、生きがいづくりや多様な人びとの居場所づくりなど、教育や福祉等の幅広い分野の機能を合わせ持つ  
新しい行政サービスの総合施設を目指す
- 市民との共創のもと、市民の「知」・「文化」・「交流」を育み、あらゆる人の居場所となる未来型図書館は、22世紀に橋を架ける拠点として新時代の小松のシンボルへ